

つくほ治療院新聞

人物紹介『杉山和一』!!

今年には杉山和一が誕生して四〇〇年の節目の年にあたります。鍼灸を学んだ人間であれば、知らない者はいないと言われる程の超の付く有名人です。ちよつと紹介させていただきます。

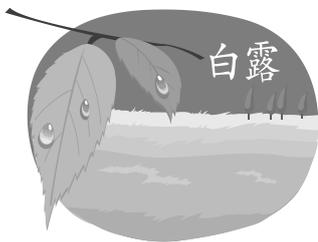
杉山和一は、一六一〇年、現在の三重県津市にて津藩家臣の長男として誕生しました。が、幼き頃に伝染病を患って失明してしまいました。武士としてこのままでは生きていけないと思つた和一は、家督を譲り刀を捨てて、鍼の道を歩み始めました。しかし、江戸で弟子入りしたものの不器用が災いしてか破門されてしまいました。失意の中、江ノ島弁財天で石につまづき倒れた際、チクツと何か刺さりました。それは、筒のように丸まった木の葉に松葉が包まれている姿でした。これを見て、和一は管鍼術を考案しました。管鍼術とは、皆さんが鍼と聞いて一番に思い描く、管の中に鍼があつて、頭の部分をトントンと叩いて刺すやつです。これを聞けば、有名な人たる所以もお分かりでしょう。その後、江戸にて開業し、61歳で検校となります。当時の将軍で

二十四節季

白露

(はくろ)

旧暦八月酉の月の正節で、新暦九月八日ごろです。いよいよ秋も本格化となり、野草に白露が宿りはじめます。



通巻21号

あつた徳川綱吉の病を癒したことから、公に認められ、72歳の時、全国で45ヶ所の講習所を開きました。これが現在の盲学校教育の基となりました。視覚障害者の道を確立し、鍼灸を生業として定着させたわけです。これまた、鍼灸師に視覚障害者が多いわけが分かつたのではないのでしょうか。

ちなみに検校とは、盲目の方に与えられる官位で、最高位の名称になります。多くは音楽に關わる文化人の方ですが、鍼灸界にも歴史に名を残す方がいらつしやるので、杉山和一検校の功績の御陰で、今の世にも鍼灸が受け継がれているのです。



『家族って何』

家族といつても、それぞれが意志や感情を持った個性の集まりであり、価値観も違います。お互いに好悪の感情をぶつけ合つたり、干渉し合つたり、そつぽを向くと、他人以上に冷たくなつたりします。

それでも、苦しみや悲しみ、老いや病や挫折とともに、喜びや悲しみを共有するものであり、自分を温かく包み込んでくれるものでしょう。

家族とは、人生の歩みを共にする同行者ではないでしょうか。それぞれの立場を尊重し、気持ちを理解し合い、お互いのつながりを深め、成長し合うような人間づくりのできるような家庭にしていきたいものです。そこに家族であることの意味があり、人間としての成熟を遂げていく道があるのではないのでしょうか。

「一日一話」より

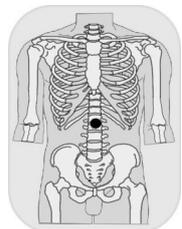
中脘

(ちゅうかん)

「中」は、中心・中央の意味があります。

「脘」は胃袋をあらわします。つまり、中脘には胃の中心にある重要なツボという意味があります。

場所は、体の中心線上で、おへそから指幅四本分ほど上にあります。ちようど、みぞおちとおへその真ん中あたりにあります。



胃の疾患の症状全般に効果があるとされ、胃痛・胃けいれん・食欲不振などに用いられます。また、胃の病気だけではなく、糖尿病・脾臓の病気などにも効果があるとされています。

9月の定休日

○印はお休みです

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

「脳梗塞」

頭の中には、脳に栄養を送る血管がたくさんあります。この血管が何らかの原因によって、詰まってしまったり、狭くなってしまう結果、脳の組織が栄養不足になり、壊死するものを脳梗塞と呼びます。

原因を大きく三種類に分けられます。①ラクナ梗塞：脳に入った血管は、細い血管へと枝分かれしていきます。この細い血管に血流の圧力が加わることによって、徐々に壁が厚くなって詰まるものを言います。②アテローム血栓性脳梗塞：アテロームとは粥状のことです。コレステロールなどの脂肪からなるドロドロした粥が溜まることによって血管を狭めていき、やがて詰まってしまふものを言います。③心原性脳塞栓症：心房細動などが原因で

出来た心臓の血栓が血流に乗って脳まで運ばれて、脳の血管を詰まらせるものを言います。

詰まることにより、その部分の脳組織に栄養が行かなくなるので、その部分を支配する場所が働かなくなり、片麻痺・言語障害・めまい等の症状を起します。突然発症する場合がありますが、前ぶれとして「一過性脳虚血発作(TIA)」と呼ばれ、脳梗塞と同じ症状が数分〜三十分以内で起こるものがあります。これは、一時的に血管が詰まり、症状を現わすものの、自然と溶けて血流が再開されるために、また元へと戻ります。しかし、詰まり易い状態に変わりはありませぬので、気をつけなければならぬ事に変わりありません。



院長の独り言

寝たきりの原因の約三割を占めるように、脳梗塞の多くは、麻痺や言語障害などの後遺症が残り、介護が必要になります。経絡治療家は患者さんの脈を診て治療しますが、血圧が高いのに弱々しい脈をしているケースを多くみかけます。血圧とは、心臓が血液を送り出す圧力ですから、血圧が高いと通常脈は強く打ちます。しかし服薬のために、必要なだけ押し出して来ないので弱々しい脈となってしまう。「これでは、いずれ詰まってしまふのに」と思ってしまう。もちろん薬物治療も大事ですが、運動や食事を含めた生活習慣の改善を積極的に行うことに加えて、鍼灸治療で健康な体を目指しましょう。症状が発症してから対処するよりも、ならないための努力をしてみたいかがですか。

《連載》東洋医学講座

十二経脈

縦に流れる経脈と横に流れる絡脈の中で、最も重宝される物に、「正経十二脈」があります。これは、手と足それぞれに名前の付いた経脈があり、体内の臓腑と繋がっているものです。手足の体表と臓腑が繋がっていることで、体表のツボを用いて体内の臓腑の治療が可能になります。

十二経脈は、中焦(横隔膜からヘソの間)から始まります。手太陰肺経↓手陽明大腸経↓足陽明胃経↓足太陰脾経↓手少陰心経↓手太陽小腸経↓足太陽膀胱経↓足少陰腎経↓手厥陰心包経↓手少陽三焦経↓足少陽胆経↓足厥陰肝経と巡って、再び中焦に戻ります。こうやって全身を気が巡っています。一つ「手太陰肺経」を例に挙げます。中焦から始まった流れは、まず大腸へ降りて行き、大腸をまといまわります。今度は上へ向かい肺に行きます。その後、胸の全面より体表面に出てきて、腕の前側を通って親指の先まで行きます。これにより、腕の前側のツボを使って、肺そのものや肺の気を改善する事が可能になるわけです。

気は一呼吸の間に六寸(約十八センチ)進み、二七〇回の呼吸で、全身を一周します。一日一三五〇〇回呼吸するので、人体を一日五十周巡ることになります。



出来る限り専門用語を簡単に表現するよう心がけてはいるのですが、今月は名詞が多く読みにくくなってしまう、申し訳ございませんでした。

医食同源

いわし

内臓の働きを強め、体力をつけ、増血します。骨ごと食べられ、骨や歯を強化し、骨粗鬆症を予防します。また、健康な皮膚や髪、爪を作り、成長を促します。さらにDHAやEPAが豊富に含まれているため、コレステロール値を下げ、血栓を防ぎ、脳・神経組織の発育や機能を高め、生活習慣病を予防します。

執筆余話

以前、東京で仕事をしていた時に、ツアー滞中で一緒に仕事をさせていただいていたバンド「DASEN」が今年の四月、七年半ぶりの再結成をしました。四月のライブに続き、八月のライブにも招待していただきました。今回は楽屋で会う事が出来、ゆっくりではなかったですが、会話を交わすことが出来ました。ドラムを演奏しているだけに、体への負担もあるようで、七年半前とは疲労感が違うと言っていました。アラフォー同世代の二人は、変なところで共通認識をしていたようです。しかし、アラフォー世代もこれからです。是非とも二人の今後に御期待下さい。

